

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

☆☆SAH IGNITE2.0に参加してきました☆☆

3月11日（火）群馬県庁 32 階の NETSUGEN にて、前橋南高校生徒会本部役員 8 名で『SAH IGNITE（イグナイト）2.0』に参加してきました。『SAH IGNITE2.0』とは、『SAH関係校（指定校・協力校）のこれまでの取組に関するストーリーを共有し、互いの理解を深める場を作ることで、各校の取組の推進に繋げ、また、エージェンシーを活かし、SAHに関わるすべての人の心にIGNITE（火をつける）するきっかけを生み出す』取組です。前橋南高校は生徒会長腰高紗依さん（2年）、生徒会副会長小此木いろはさん（2年）が『前橋南生徒会の挑戦～SAHを通しての記録～』というテーマで発表を行いました。また、当日の全体司会の一人として、生徒会監査の堀川凛さん（2年）が参加し、全体の司会進行を行いました。今回の SAH Journal では、発表・司会の様子や当日の前南生の会場設営の準備などの裏方の様子を載せながら、生徒会の活躍を写真とともに紹介していきます。（生徒会顧問 原澤 正樹）



県庁職員との発表打ち合わせ



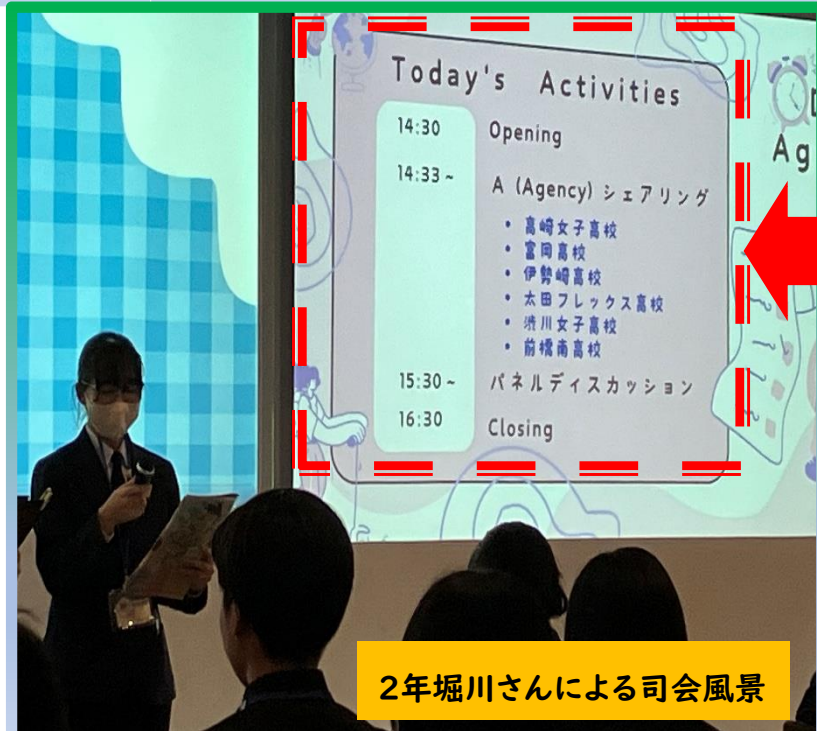
司会生徒との発表打ち合わせ



前南生徒会による運営手伝い①

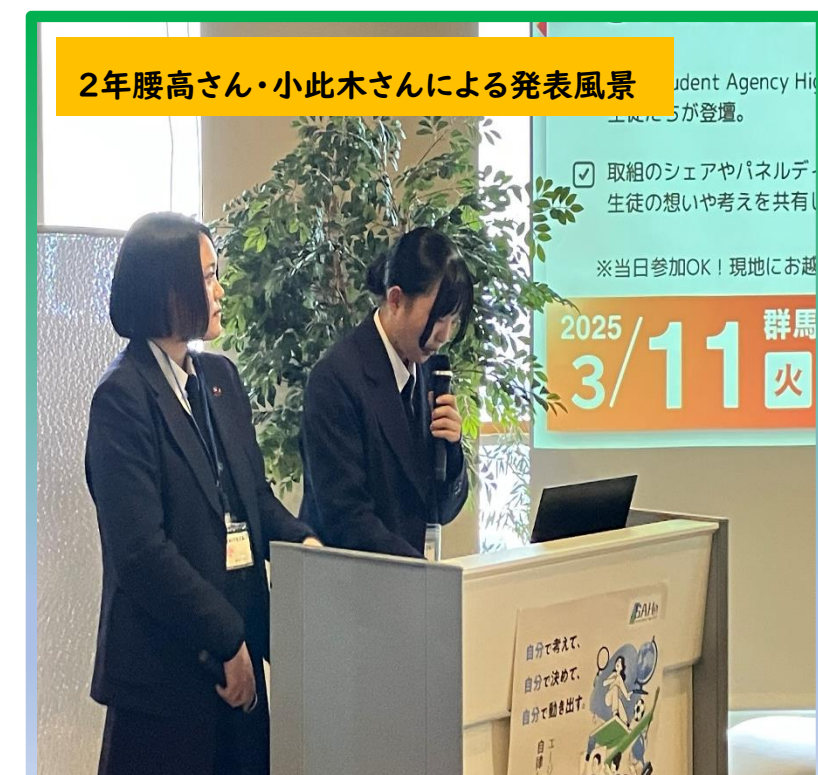


前南生徒会による運営手伝い②



2年堀川さんによる司会風景

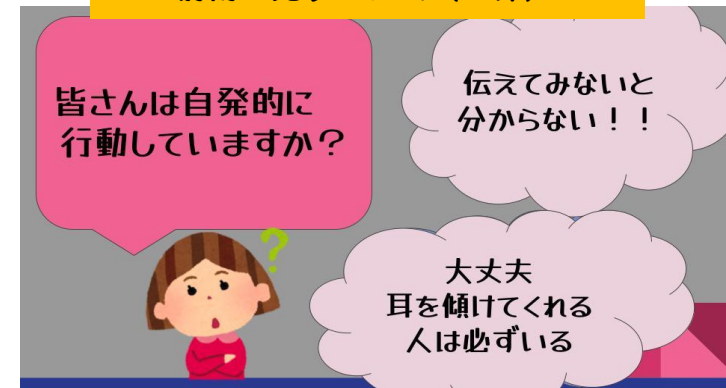
A(Agency)シェアリングでは高崎女子高校が『文化祭・体育祭の運営を通して』、富岡高校が『文化祭毎年開催に向けた生徒主体の運営体制構築』、伊勢崎高校が『他者との交流における思考や行動の変容～OECD プロジェクト無限大を通して～』、太田フレックス高校が『太フレスポー ツデー2024 ～生徒主体の新しい学校行事に挑戦！』、渋川女子高校が『生徒主体の学校説明会』について発表を行いました。



2年腰高さん・小此木さんによる発表風景



↑↑前南の発表スライド(一部)↓↓



パネルディスカッションの風景



IGNITE 終了後の前南生の様子



IGNITE 終了後の前南生の様子②<平田郁美教育長とともに!>

★参加生徒の感想★

他校の皆さんのストーリーを共有していただいたことで一人一人が何を考え、何を感じていたのか知ることができました。そのため、自分が経験したことの中で感じたことと織り交ぜながら深く考えることができました。また、取組の結果だけではなく、過程を重視した皆さんの発表は私の心に火をつけ、大きな刺激となりました。なにより、発表者全員が生き生きと輝いている姿がとても印象的でした。その姿を見て、主体的に考え、行動することは、個人の持つ良さを引き出し、輝かせるきっかけになると実感しました。SAH活動がもたらす可能性は無限大であり、積極的に活動できている自分自身にも大きな可能性を感じられた大切な日となりました。困難なことがあっても常に夢を持ち努力し続ける挑戦者であり続けたいと思いつつ、誰かの心に火をつけられるような人でもありたいと感じた良い経験となりました。このような良い経験が出来たのは群馬県教育委員会をはじめ、多くの高校の皆さんのおかげです！本当にありがとうございました！！！！^_^

<生徒会長 2年 腰高 紗依>

県庁に向かっている最中は不安で吐きそうだったのですがいざ本番になると自分でも驚くほど落ち着いており、発表もパネルディスカッションも全力で楽しむことができました。他校と交流して、こんなすごい人達が世の中にはたくさんいるんだと思うと胸が踊りました。また、自身の成長を感じることができた部分があり、嬉しくて嬉しくて仕方ありませんでした。他校の様々な取組や挑戦を聞いて、まだまだ私達も負けてられないと感じ、他校の生徒達から学べたことを吸収してこれからももっともっとレベルアップしていきたいです。今日の出来事は忘れられない思い出になりました。

<生徒会副会長 2年小此木 いろは>

私は今回のイベントでは司会を務めました。司会の経験はありましたが、原稿をそのまま読むような司会ではなく、その場の雰囲気に合わせて固くならず進行するように求められていたり、その上、私は県庁に入るのが今回初めてということもあり、緊張が大きかったです。花粉で鼻水が止まらなくなってしまっていました。もう1人の司会担当の高崎女子高校の生徒と支え合っとうまく進行できたと思います。「A シェアリング」では他校の取組とその過程や想いを、「パネルディスカッション」では学校のあり方やSAHに対するそれぞれの考えを知ることができ、今回のイベントを通して、視野が広がったように感じましたし、他校の方々ともっと関わりたいと思いました。得られるものが多い、貴重な経験だったので、これを今後の生徒会活動、ひいては人生に活かしていきたいと思えます。

<生徒会監査 2年 堀川 凛>

今回 IGNITE 2.0 に参加したことはとても良い経験になりました。他校のSAH活動について知ることができたと同時に、SAH活動をすることで得られることやSAH活動の可能性について改めて確認することができました。どの学校も活動が素晴らしいことはもちろんなのですが、自分たちのしてきた活動に自信を持って堂々と発表していたことがとても印象に残っています。発表者全員が輝いて見えて、心ときめきました。参加していた全員がそれぞれの活動に全力で取り組んでくれていたことが伝わってきて、私も自信を持って全力で取り組める活動をしたかったです。私はまだ自分で納得できるほどの活動ができていないので、今回参加して得られたものをバネにして、これからもっと素敵で心ときめくような活動をしていきたいと強く思いました。

<常任委員 1年 峯岸 優衣>

今回の『SAH IGNITE2.0』に向けて、腰高さんと小此木さんが一生懸命準備をしている姿を近くで見えていました。実際に「0から1を作る」作業は、試行錯誤しながら進めていきます。2人のすごさはその「0から1を作る」作業に妥協を許さない点につきます。「多くの人たちに自分たちの活動を知ってもらいたい、そして少しでも多くの人たちの心を動かしたい」という気持ちから、2人は一切の妥協を許さず、資料作りやプレゼンテーションの練習を行っていました。生徒会顧問としてはもちろん、1人の教員として、改めて「リーダーとして自分ができることに全力で行うこと」や「誰かの利益のために動くこと」の大切さを再認識することができました。発表者の腰高さん、小此木さん、司会進行の堀川さんは体験的に学べ、それを見学していた後輩たちにも「目指すべきお手本としての姿」を見せることになり、いい刺激を与えたと思います。今後も生徒会のメンバーには「挑戦者」として、失敗を恐れず、活動してほしいと思うとともに、彼らを見守りながら一緒に行動していきたいです！お疲れ様でした！！！！<生徒会顧問 原澤正樹>

★教頭より★ 前回の『SAH IGNITE』は先生方のパネルディスカッションでした。今回は『SAH』本来の主人公である生徒たちによる『A (Agency) シェアリング』とパネルディスカッションでした。SAH指定校や協力校の生徒たちが、各々の取組やそのときの苦労や感情を共有し、刺激を与え合い、互いの心に再び火を灯しあう機会となりました！実はこの日は東日本大震災の起こった3/11だったので、発表の途中ではありましたが、地震の発生した『14時46分』には館内放送に合わせ司会の堀川さんの指示により『参加者全員が起立し黙祷』を捧げました。この行動も生徒司会者打ち合わせのなかで決めたことと聞いています。自分たちのみならず他者にまで考えが及ぶ生徒たちを誇りに思います！次は他の前南生の番です！教頭 星野 亨



前南 SAH イメージポスターが県庁 32階を占拠!!!

★校長より★ 「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」を最上位目標としたSAHも2年が経過しました。この間、色々な学校で色々な取組が行われてきました。今回は本校を含む、6校の発表と3校の生徒によるパネルディスカッションでしたが、各校の生徒が熱意を持って、苦労しながら取り組んでいる様子がうかがえました。新しい取組を行う際にはなかなかスムーズに進むことはなく、色々な課題や困難に当たり、調整しながら進めていかなければなりません。今回発表してくれた各校の皆さんはそれを経験することができたのだと感じました。この経験を群馬県内の色々な高校の生徒と共有できた、今回の『SAH IGNITE2.0』はとても有意義な企画だったと感じました。「自ら考え、判断し、行動する」は皆さんが、大学に進学したり、社会人になったりしたときには本格的に求められることとなります。SAHの取組は『高校生が今、取り組むべきこと』として群馬県全体で行われています。小さな取組で良いのですべての生徒が「自ら考え、判断し、行動する」について意識し、学校生活の色々な場面で活動して欲しいと思います。その経験が将来の皆さんを作ります。校長 原 拓史